



第8回世界スカウト国会議員連盟総会
ヤングリーダープログラム
派遣報告書

The 8th World Scout Parliamentary Union General Assembly
Young Leaders Program

2016年8月31日～9月3日、ストックホルム（スウェーデン）

<目次>

1. 派遣概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
 - 1.1. 派遣概要
 - 1.2. 日程
2. 第8回世界スカウト国会議員連盟総会・・・ p.3
 - 2.1. 世界スカウト国会議員連盟とは
 - 2.2. 総会概要
3. ヤングリーダープログラム・・・・・・・・・・ p.5
 - 3.1. セーフ・フロム・ハーム
 - 3.2. 価値観に基づくリーダーシップ
 - 3.3. 雇用されるための能力
4. スウェーデンについて・・・・・・・・・・ p.9
 - 4.1. スウェーデンの基礎情報
 - 4.2. 市街地視察（ストックホルム、ウプサラ）
5. 今後に向けて・・・・・・・・・・ p.13

1. 派遣概要

1.1. 派遣概要

第8回世界スカウト国会議員連盟総会はスウェーデンでの開催であり、スウェーデン連盟がヤングリーダーの養成に力を入れているということで、第8回総会に合わせてヤングリーダープログラムも開催されることになった。日本連盟から全国ローバースカウト会議（RCJ）の運営委員に募集がかけられた。

<派遣員>

- 加藤 大貴（RCJ 議長、岩手連盟盛岡第5団）
- 池田 章浩（RCJ 副議長、愛知連盟名古屋第87団）
- 山岸 野明（RCJ 運営委員、神奈川連盟横須賀第4団）
- 戸谷 明寛（RCJ 運営委員、大阪連盟堺第15団）

1.2. 日程

8月30日

-22.00	ストックホルム中央駅集合、夕食
22.30-	各自の宿泊先へ

8月31日

10.00-	宿泊ホテル集合、チェックイン
11.00-	会場までのルートを下見
12.00-	自由時間（ストックホルム市街地視察）
18.00-20.00	参加者チェックイン
20.00-21.30	レセプション

9月1日

9.00-10.15	開会式
10.15-10.45	休憩
10.45-12.15	セッション①ーセーフ・フロム・ハーム
12.15-13.00	昼食
13.00-14.30	セッション②ー価値観に基づくリーダーシップ
14.30-15.00	休憩
15.00-16.30	セッション③ー雇用されるための能力
19.00-	夕食会

9月2日

9.00-10.45	総会
10.45-11.15	休憩
11.15-12.15	閉会式
12.15-	自由時間（ウプサラ視察）

9月3日

12.00	宿泊ホテルチェックアウト
以降	各自行動、帰国の途につく

2. 第8回世界スカウト国会議員連盟総会

2.1. 世界スカウト国会議員連盟とは

世界スカウト国会議員連盟（World Scout Parliamentary Union、以下WSPU）は、スカウト活動を効果的なノンフォーマル教育であると考えている国会議員の方々が、各国連盟と世界のスカウティング両方をより強固なものにするという目的で、1991年に設立された。その設立以来、定期的に総会が実施されており、前回第7回の総会は日本での開催だった。



2.2. 総会概要

第8回世界スカウト国会議員連盟総会では、以下の内容が行われた。

(1) 開会セッション

- WSPU 前会長・塩谷立先生の挨拶
- 議題の承認
- WSPU 規約の見直し
- 総会議長のスピーチ
- エヴァ・タレン・フィネ新 WSPU 会長の紹介
- トビアス・ビルストローム スウェーデン国会副議長のスピーチ

(2) 全体セッションⅠ 「セーフ・フロム・ハーム」

(3) 全体セッションⅡ 「若者と価値観に基づくリーダーシップ」

(4) 全体セッションⅢ 「雇用されるための能力」

(5) 閉会セッション

- 世界スカウト行事のプレゼンテーション（世界ムートなど）
- 第9回 WSPU 総会のホスト国と開催地（タイ）
- 全体セッションのまとめ／修正
- 決議の採択



所感

世界中のスカウティングに携わっている国会議員によるプレゼンテーションを聞く非常に貴重な機会であり、極めて有意義な時間となった。プレゼンターの方々は皆、用意された原稿をじっと見るのではなく、聴衆を見渡しながらか抑揚をつけて、堂々と話をしておられた。英語を母国語としない国会議員もいたが、とても聞き取りやすく感じた。スカウティングのみならず、仲間と情報を共有するときには、ゆっくり、はっきりと分かりやすく伝えることが大切であることを再認識した。 (山岸委員)

3. ヤングリーダープログラム

3つのセッションはそれぞれ、基調講演とワークショップの2つに大きく分かれていた。基調講演についてはスウェーデン連盟の報告書に全文が掲載されるであろうということで省略させていただき、池田副議長と戸谷委員が参加したワークショップの概要と、山岸委員の所感を掲載する。

3.1. 【セーフ・フロム・ハーム】

<池田副議長>

- ・セーフ・フロム・ハーム＝害からスカウトを守ること。
いじめや精神的、肉体的な嫌がらせなどがその「害」にあたる。
- ・セーフ・フロム・ハームの普及は各国連盟に拠るところが大きいので、セーフ・フロム・ハームの考え方の認知度を高めるための取り組みを各国連盟が行わなければならない。
- ・スウェーデンでは、ベンチャースカウト(15歳以上)からセーフ・フロム・ハームについて学ぶ義務がある。もちろん、指導者として関わるすべての人がセーフ・フロム・ハームを知らなければならない。
- ・スウェーデンでは、2011年の第22回世界ジャンボリー（スウェーデンで開催）の前にE-ラーニングを用いてセーフ・フロム・ハームに関する研修を実施したため、認知度が広がった。※昨年度の日本も同様である。

<戸谷委員>

各国の児童保護に関する政策としてどのようなことをやっているか、またそれを進めるにあたって各国の間でどのような協力が必要かということを中心に議題として話し合いが交わされた。

また、SNSの問題から子供たちを守ることの難しさや、スウェーデンのヤングリーダーから「政策にもっと若い人の意見などを取り入れてほしい」というような意見が各国議員に対して発信された。

3.2. 【価値観に基づくリーダーシップ】

＜池田副議長＞

- 一人の人が踊っていたら、変人に見られるが、ひとり、ひとりと踊る人が増えるとそれは運動へとつながる。
- リーダーシップに必要なこと＝協力。
- 「I know」と「others know」を大切にする。お互いに共通認識を持つことが大切。

＜戸谷委員＞

まず、リーダーシップに関する動画を視聴しその後リーダーシップの歴史に関するプレゼンテーションと質疑応答が行われた。そして、配られた紙の中に書かれた計 71 個のワードの中からそれぞれが自分に必要だと思うものを 10 個選ぶように指示された。さらに、その 10 個の中から 5 個、5 個の中から 3 個選び、時間のある限り何故それを選んだかの発表を行った。



3.3. 【雇用されるための能力】

＜池田副議長＞

- 指導者として、スカウトの将来に向けて焦点を絞ってあげること、正しい道を示すことが重要
- すべてのスカウトが成功の可能性を有している。
- グループの中で、追いつけていない、最も頼りないな子への支援が最も大切。その子を仲間に入れてあげることによってグループはあっという間に強くなる。
※最も弱い指＝小指だが、小指なしでは握る力が極端に弱くなる

＜戸谷委員＞

スウェーデンのヤングリーダーがチェアマンを務め、会議の進行が行われた。会議の参加者それぞれが思う、スカウティングが若い人々に与える建設的な経験について発表を行うというものだった。



所感

3つの全体セッションは、どれも若者にとって重要なテーマであった。

「セーフ・フロム・ハーム」では、各国での様々な取り組みを知ることができた。セッション中に「若者がよく利用するSNSを通してセーフ・フロム・ハームについて発信するのはどうか」という発言をした際に、スウェーデンでは一定の年齢になるとオンラインで「セーフ・フロム・ハーム」の研修を受けることを教えていただいた。世界ジャンボリーでは、ISTや指導者は研修を受講することが義務付けられていた。日本のボーイスカウトでも、さらに取り組みをしていくことが求められると感じた。

「価値観に基づくリーダーシップ」では、いかに周りとの協力しながら物事を進めていくかが大切だと再認識した。会では、様々な単語（誠実さ、勇敢さ、といった価値観に関する単語）が書かれたシートを使って、ペアで自分の大切な価値観は何かを考えた。日本、タイの国会議員と同じグループになったが、「誠実さ」という項目で3人が一致したのは興味深かった。

「雇用されるための能力」では、スカウティングがどのように青年の能力を伸ばしていくか、また、どのような能力が重要かを議論した。スウェーデン独自のリーダーシッププログラムに関するプロモーションビデオを観たが、参加しているのが中学生年代であることに驚いた。スウェーデンは青年参画が進んでいる国だが、その理由が少年期からの教育にあると知ることができた。

(山岸委員)



4. スウェーデンについて



4.1. スウェーデンの基礎情報

【国名】 スウェーデン王国 Konungariket Sverige
※英語名：Kingdom of Sweden

【国旗】 澄んだ青地にキリスト教・自由・独立を表す金のスカンジナビア十字が描かれた金十字旗。

【首都】 ストックホルム Stockholm

【面積】 約 450000 平方キロメートル（日本の約 1.2 倍）

【人口】 約 9880000 人（日本の約 1/13） スカウトは約 70000 人
※人口密度：約 21.96 人/km²（日本の約 1/15）

【通貨】 クローナ 略号：SEK 約 12 円

【言語】 スウェーデン語 ※総会は全て英語でおこなわれた

【気候】 メキシコ湾流のおかげで、緯度のわりには比較的温暖だが、北極圏の冬はやや厳しい気候。四季ははっきりと分かれており、夏は極端に温度が高くなく、湿気もほとんどない。

【気温】 四季が比較的是っきりしている。
気温・・・夏＝最高：22.0 度 最低：11.0 度
冬＝最高：1.0 度 最低：-5.0 度

【宗教】 プロテスタント（福音ルーテル派が多数）

4.2. 市街地視察（ストックホルム、ウプサラ）

【ストックホルム】



ストックホルム市庁舎



ガムラ・スタン（旧市街）の美しい街並み

【ウプサラ】



ウプサラ大聖堂の外観と内部



ウプサラ大学の美しい植物園

所感

魔女の宅急便の舞台になったガムラ・スタン、石畳で一つ一つの建物が繋がっている街並みはとても美しく、日本の建物より断然大きい。島と島が繋がっているストックホルムは道に迷うと遠回りしなければならない。古い街並みは歩いているだけで楽しめるものだった。また、ウプサラは郊外で歴史のある大学、大聖堂、庭園をみることができた。ガムラ・スタンや中央駅の石畳、煉瓦造りとは違い、地面があり緑豊かで広々としていた。派遣の空き時間で観光をしたがスウェーデンのことについて、電車やバス、街を歩くことを通していっそう深く知ることができた。

(池田副議長)



5. 今後に向けて

<加藤議長>

本派遣では、「スカウティングは世界中で展開されている運動であること」「スカウティングはさまざまな方々の支援のもとに成り立っていること」の2つを改めて確認できた。アジア・中東の国々を中心に世界中から集まった国会議員の方々が、青少年により良きスカウト活動をしてもらえるか議論する場に立ち会えたのは、今年度のRCJ議長として非常に意義深かったと考える。

たしかにスカウティングは非政治的な活動である。ここでの「非政治的」というのは、特定の思想に傾かない、ということの意味するのであって、各国の政治と関係を持たない、ということの意味してはいない。国家の中枢を支える国会議員の方々が、スカウティングに一定の価値を見出し、それを支援してくれるというのは、スカウト運動の繁栄のために必要なものである。

指導者や育成会だけでなく、こういったところでもスカウト運動を支援してくれている方々がいるのだということ肝に銘じ、感謝しながら自分のローバーリング、今後のスカウティングを楽しもうと思う。

<池田副議長>

ヤングリーダープログラム派遣で国会議員連盟の総会に参加したことで、世界の国会議員の方々がどうしてボーイスカウトを応援してくださるのか、またWOSMがどのようなスカウティングを展開しようとしているのかを直に知ることができた。

また、同世代の世界のスカウトが国際委員として青年参画している様子やワークショップを通して各国のスカウティングの現状を知ることができたことも大きかった。日本のボーイスカウト活動を考えた時、各国のスカウティングから学べることが多くあると感じたため、グローバルスタンダードを知り国内のスカウティングに還元したいと思った。

<山岸委員>

海外派遣には何回か参加したことがあるが、今回は特に「日本の代表」という意識を持って参加できたのではないかと考える。各国の国会議員の方とともに諸問題を議論するという貴重な経験をさせていただけたことに心から感謝を申し上げたい。

また、分科会では、全てのセッションで自分の意見を発言することができたが、相手の意見へのコメントや議論を深化させる質の高い意見が出せたかは疑問である。今回の経験を活かして、事前学習や英語力の向上に努めたい。

加えて、各国の青年参画の進み具合にも驚いた。例えば、スウェーデン連盟の国際副コミッショナーに21歳の青年が就任しているなど、青年が各国のスカウティングの中枢にいることの意義は大きいと考える。日本においてもローバー年代が中心となり、よりよい社会人になるために一層努力していく必要があると感じた。そのために、全国ローバースカウト会議の一員として、これからも積極的に活動していきたいと考えている。

最後になるが、今回お会いした全ての方に感謝の言葉を述べて、終わりにしたい。Tack（ありがとう）！

<戸谷委員>

今回の派遣に参加したことで、普段から日本のローバー年代のスカウティングについて考えきれていないことや世界規模で行われている我々年代に対する取り組みの動きについて把握しきれていない等の様々な課題が浮き彫りになった。今後RCJ運営委員として活動をしていくなかで、それらの情報は当たり前のように知っていなければいけないことであるし、長い目で自らのスカウティングに目を向けても数々の場面で責務を必要以上に果たすためには最低限必要だと感じた。そのため、今後このような機会があったときには自分の置かれている立場をはっきりと理解し責務を果たすことができるように、知らないことに対して普段から積極的に知る努力をし、準備をしていくことが必要だと考える。

Rover Scout
Council of
Japan

World
Scout
Parliamentary
Union